

第三者検証

リコーグループは、多様なステークホルダー(利害関係者)の皆様により信頼性の高い情報開示を行うと共に、環境経営の進歩・改善に役立てることを目的に、第三者検証を受審しました。受審にあたっては、報告書に記載されている情報の検証に留まらず、検証報告・所見などの指摘事項をポジティブ・フィードバックすることにより、リコーグループの環境経営システムの継続的な改善に結びつけること、そして環境問題が地球全体の問題であるため検証をグローバルに行うことの2点を重視しました。審査機関であるBVQIに対しては、当該数値等(当報告書に掲載された対象数値・図表)の適切性、信頼性、遡及性(検証可能性)の検証を要請し、記述・表現に関してはリコー社会環境本部の責任において検証を行いました。また、BVQIによる検証報告・所見などの指摘事項についても以下に情報開示すると共に、継続的な改善に取り組み、その結果を次回の検証対象として明らかにしていきます。



BVQIの参考所見(全文)

BVQIは今回の検証で株式会社リコー本社、東北リコー株式会社、Ricoh Asia Industry (Shenzhen) Ltd. (中国) Ricoh Europe B.V. (オランダ)、Ricoh Norge A.S. (ノルウェー) を訪問した。当該数値などの検証の過程で、リコー本社レベル、サイトレベルでの環境活動について多くの気付きや意見を報告してきた。それらを含めて主な所見は以下のとおりである。

1. 情報の収集と報告のシステム

当該数値等の多くのものは、環境負荷情報システムのデータベースに収録され取りまとめられているが、「報告書」の内容が多岐にわたる部分や海外の事業所の一部などには、このシステムを利用できない部分が残されている。これらの部分の個別のデータ収集、集計において、「報告書」の論旨に影響するレベルではなかったものの、集計計算上の誤り、数値の取り違え

等も見られた。これらについては再調査、再集計を要請し適正に処理されたが、正確なデータを確実に、且つ機能的に収集集計するためには、以下の点も含めシステムをさらに改善することが望まれる。

環境負荷情報システム利用範囲の拡張
データ収集、入力教育研修。特に海外での情報収集における用語の定義や方法の徹底
データの正確性の確保に対する内部監査の活用
表計算時の計算式設定ミスの検証

2. 環境会計

2000年度に比較して算出根拠が的確になり、集計の精度も向上しているが、海外サイトでは算出根拠の解釈に軽度のバラツキが見られた。ガイドラインに対する統一した理解の更なる促進を希望する。

3. LCA等

環境対応型製品やリサイクル型製品の評価にLCAの手法が前向きに活用され、効果を定量的に把握されている。先進的な部分であり高く評価される。なお、リサイクル型製品の製造にかかわるエネルギー消費の集計範囲については継続的な検討を希望する。

4. 第三者検証の進行

国内外含めて行われた検証に必要な情報はリコーの確実な協力によりすべて迅速に提供され、検証の目的を達成することができた。以上

注記(リコーによる)

BVQIによる第三者検証の対象となった数値および図表については、BVQI検証済み(1)からBVQI検証済み(27)までの連番を、本文ページ中の図表タイトルの右側に表示しておきます。「第三者検証報告書」の意見1に従って、2000年度以前のデータを訂正したものは、上記のうち(5)(7)(8)(11)(13)および(14)です。